

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和57年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

京都大学構内には多くの遺跡が分布している。吉田キャンパスの大部分や附属研究施設のいくつかは、すでに周知の遺跡として登録されており、その重要性は当センターによる発掘調査の成果によっても、広くかつ深く認識されるようになってきている。そして周知の遺跡はもとよりのこと、その他の構内敷地においても、考古学や歴史学および関連諸科学の発展に大きく寄与する発掘調査の成果がつつぎつつぎと積み重ねられてきた。当センターは京都大学敷地内の埋蔵文化財にかんする調査と研究および保存と活用を進捗することを業務とするが、現実に実施されている調査のほとんどは、建物新営にともなう事前調査にとどまる。計画的な主体的な遺跡の調査研究と保存活用の本来のあり方とは、まだまだ道遠しといわなければならない。しかしそのような制約のなかにあっても、遺跡・遺物の調査と研究は年を追って前進し、その保存と活用にかんする方途も次第に具体化しつつある。そして、そのみりは、本年報にも反映されている。

本年報は昭和57年度における構内遺跡の調査報告を第Ⅰ部とし、それらの遺跡や遺物に関係する研究成果を集約したセンター紀要を第Ⅱ部とする。たんなる調査報告のみでなく、その保存と活用のあり方にも言及し、かつあらたな研究成果がまとめられているのも注目すべき点であろう。

今回もまた学内、学外の多くの方々から御指導、御協力、御助言をいただいた。とくに教養部構内A P 22区における梵鐘鑄造遺構の調査および保存については、本学施設部・学生部のほか京都市埋蔵文化財調査センター、京都府埋蔵文化財調査研究センター、奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部の御助言をいただき、和歌山県瀬戸遺跡の調査と石敷製塩炉の移築にかんしては、本学理学部瀬戸臨海実験所の所長原田英司教授をはじめとする方々、和歌山県教育委員会、白浜町教育委員会のお世話になった。京都府中海道遺跡の調査においては向日市教育委員会の御協力をいただいた。ここに御礼申しあげるとともに、今後も学内・学外の方々の御指導、御協力をお願いする次第である。

昭和59年2月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

上 田 正 昭

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で昭和57年4月から同58年3月末日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割をして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第6座標系($x = -108,000$ $y = -20,000$)が($X = 2,000$ $Y = 2,000$)となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、道路：SFのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学教養部構内A P22区の発掘調査
Ⅱ：京都大学病院西構内A F15区の発掘調査
Ⅲ：京都大学北部構内B F33区の発掘調査
Ⅳ：和歌山県瀬戸遺跡の第4・5次発掘調査
(例 ⅠⅠ：京都大学教養部構内A P22区出土遺物1番)
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 注は、各章ごとにまとめて章末に記載した。また、第Ⅰ部の参考文献は、本文末に、[著者名 発表年]の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。第Ⅱ部については、各章末の注に一括して記載した。
- 8 遺構・遺物の実測と製図は、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、飛野博文、津隈久美子、川島はる代、家根祥多、花谷浩、増井正哉、柴一郎、玉田芳英、古賀秀策がおこなった。遺物の撮影は、泉拓良、菊原淳が担当した。
- 9 本文は、川上貢、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、飛野博文、花谷浩が各章を分担執筆した。執筆者名は、各章の初めに記した。
- 10 編集は、上田正昭の指導のもとに浜崎一志がおこない、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、三宅由美が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和57年度

目 次

第 I 部 昭和57年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 昭和57年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の大要	1
2 調査の成果	1
3 京都府向日市中海道遺跡の調査	2
4 遺跡の保存と活用	4
第 2 章 京都大学教養部構内 A P 22 区の発掘調査	7
1 調査の経過	7
2 層 位	7
3 縄文・弥生時代の遺構と遺物	9
4 古墳時代の遺構と遺物	12
5 古代の遺構と遺物	16
6 中世の遺構と遺物	22
7 近世の遺構	28
8 小 結	29
第 3 章 京都大学病院西構内 A F 15 区の発掘調査	31
1 調査の経過	31
2 層 位	31
3 近世の遺構	32
4 古代・中世の遺構	32
5 遺 物	35
6 小 結	40

第4章 京都大学北部構内B F 33区の発掘調査	41
1 調査の経過	41
2 地形と層位	42
3 遺構	43
4 遺物	45
5 小結	50
第5章 和歌山県瀬戸遺跡の第4・5次発掘調査	51
1 調査の経過	51
2 層位	52
3 縄文晩期・弥生前期の遺構と遺物	53
4 古墳時代の遺構と遺物	56
5 奈良時代の遺構と遺物	59
参 考 文 献	61
京都大学構内遺跡調査要項	64

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要Ⅲ

胎土分析による窯跡出土陶器の分類	73
1 はじめに	73
2 分析試料	74
3 分析法	82
4 元素組成に表われる窯跡群別特徴	83
5 胎土の組成分類	86
マイクロコンピュータと遺跡調査	93
——光波タキオメータとマイクロコンピュータによる遺物分布図の作成——	
1 マイクロコンピュータと遺跡の実測	93

2	遺物分布図の作成	94
3	遺物分布図作成システムの機器構成	94
4	RDFS (Receive Data from S DM3 E) プログラム	96
5	TRD (Trans Data) プログラム	98
6	DDA (Draw out the Distribution of Artifacts) プログラム	99
7	小 結	102
古墳からみた5・6世紀の山城地方		105
1	はじめに	105
2	山城における5・6世紀の主要古墳	105
3	主要古墳の動向	109
4	おわりに	111

図 版 目 次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学教養部構内 A P 22 区
 - 1 調査区全景(西から)
 - 2 弥生前期水路 S R 1 ~ S R 4 (南から)
- 3 京都大学教養部構内 A P 22 区
 - 1 3号墳(南から)
 - 2 土壙墓 S K 620(南から)
- 4 京都大学教養部構内 A P 22 区
 - 1 梵鐘铸造坑 S K 257(北から)
 - 2 土坑 S K 265(東から)
- 5 京都大学教養部構内 A P 22 区
 - 1 門 S B 2 (東から)
 - 2 土壙墓 S K 225(東から)
 - 3 土壙墓 S K 246(南から)
 - 4 土壙墓 S K 217(西から)
 - 5 土壙墓 S K 243(東から)
- 6 京都大学教養部構内 A P 22 区
S D 18・5号墳・3号墳出土遺物
- 7 京都大学教養部構内 A P 22 区
S K 620・5号墳・3号墳出土遺物
- 8 京都大学教養部構内 A P 22 区
S K 257・S K 265出土遺物
- 9 京都大学教養部構内 A P 22 区
S K 221・S D 230・S K 206・S K 246出土遺物
- 10 京都大学病院西構内 A F 15 区
 - 1 近世遺構全景(西から)
 - 2 古代・中世遺構全景(西から)
- 11 京都大学病院西構内 A F 15 区
 - 1 井戸 S E 11 すり鉢出土状況(北西から)
 - 2 井戸 S E 2 すり鉢出土状況(東から)
 - 3 井戸 S E 11(南から)
 - 4 井戸 S E 2 (東から)
 - 5 溝 S D 22 遺物出土状況(西から)
 - 6 列石遺構 S X 1 と埋甕 S X 2 (南から)

- 12 京都大学病院西構内A F 15区
S E 15・S E 18・S K 117出土遺物
- 13 京都大学病院西構内A F 15区
S X 2・S D 22・S E 2・S K 120出土遺物
- 14 京都大学北部構内B F 33区
1 住居跡S B 1 検出(南から) 2 住居跡S B 1 の炉(東から)
- 15 京都大学北部構内B F 33区
1 住居跡S B 2 検出(東から) 2 住居跡S B 2 (南東から)
- 16 京都大学北部構内B F 33区
T R 2 赤褐色粘質土出土遺物
- 17 京都大学北部構内B F 33区
S B 1・S B 2 出土遺物
- 18 京都大学北部構内B F 33区
S B 1・S B 2・T R 1 黒褐色土・T R 2 黒褐色粘質土出土遺物
- 19 和歌山県瀬戸遺跡
1 遺跡遠景(南東から) 2 配石墓S X 1 (南から)
- 20 和歌山県瀬戸遺跡
1 配石墓S X 1 土器出土状況(西から) 2 縄文晩期小土坑群(東から)
3 土器溜S P 30(南から) 4 土器溜S K 7 (東から)
5 土器溜S K 1 (東から) 6 石敷製塩炉S X 2 (南から)
- 21 和歌山県瀬戸遺跡
S X 1・S P 30・包含層出土遺物
- 22 和歌山県瀬戸遺跡
S K 1・S K 7・包含層出土遺物, 目良式土器B類の分類

挿 図 目 次

昭和57年度構内遺跡調査の概要	
図1	中海道遺跡試掘調査の位置…… 2
図2	TP1土器溜・TP3暗褐色土・ TP5・TP2黒褐色土出土遺物… 3
図3	火葬塚周辺の保存修景計画…… 5
教養部構内A P 22区の発掘調査	
図4	調査区中央東西畔北壁の層位… 8
図5	弥生時代の遺構…………… 9
図6	暗褐色砂質土・SR1・SR3・ SR4・SD18出土遺物…11
図7	古墳時代の遺構……………12
図8	3号墳……………13
図9	土壙墓SK620……………13
図10	SK620出土遺物……………13
図11	1号墳出土遺物……………14
図12	1号墳・5号墳・3号墳・ 4号墳出土遺物…15
図13	梵鐘鑄造坑SK257・SK245…16
図14	SK257定盤の南北・東西断面…17
図15	溶解炉の復原案と炉の民俗例…18
図16	SK257・SK265出土鑄型…19
図17	SK257・SK265出土遺物…20
図18	SK257定盤の考古地磁気……21
図19	古代・中世の遺構……………23
図20	土壙墓SK225・SK246・ SK234・SK217・SK243…24
図21	SK225出土遺物……………26
図22	SK206・SK246・ SK217出土遺物…26
図23	SK221・SK231・ SD230出土遺物……………27
図24	近世の遺構……………28
図25	桑名の鑄工中川裕次氏の 描いた梵鐘鑄造図…29
病院西構内A F 15区の発掘調査	
図26	調査区中央東西畔北壁の層位…31
図27	古代・中世の遺構……………33
図28	井戸SE11・SE2……………34
図29	SX2・SE15出土遺物……………35
図30	SE18・SD22・SE2・ SK117・SK120出土遺物…37
図31	古代・中世の煮沸形態の変遷…38
北部構内B F 33区の発掘調査	
図32	調査区と周辺の縄文時代 遺物出土地点…41
図33	調査区北壁の層位……………42
図34	調査区の遺構配置図……………43
図35	住居跡SB2・SB1……………44
図36	TR2赤褐色粘質土・ SB1・SB2・TR2 黒褐色粘質土出土の縄文土器…46
図37	TR2赤褐色粘質土 出土の縄文土器……………47
図38	SK1・SB1・SB2 出土の縄文土器…49
図39	TR1黒褐色土・TR2 黒褐色粘質土出土の縄文土器…50
和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査	
図40	調査区の位置……………51

図41	調査区南壁と中央畔 東壁の層位……………52	図57	各窯跡群出土陶器の元素 組成にもとづく分類樹(2)……89
図42	配石墓SX1……………53	マイクロコンピュータと遺跡調査	
図43	SX1出土遺物……………53	図58	遺物分布図作成システムの 機器構成……………95
図44	SP30出土遺物……………54	図59	光波タキオメータとハンドヘ ルドコンピュータによる実測……96
図45	縄文・弥生土器……………55	図60	RDFSプログラムの フローチャート……………97
図46	土器溜SK1……………56	図61	RDFSプログラム……………98
図47	SK1・SK4・SK7出土遺物……57	図62	TRDプログラムの フローチャート……………99
図48	目良式土器B類の分類……………58	図63	遺物分布図(1)……………100
図49	石敷製塩炉SX2……………59	図64	遺構配置図……………100
図50	埋甕SX3出土遺物……………59	図65	遺物分布図(2)……………100
図51	奈良・平安時代の出土遺物……60	図66	遺物分布図(3)……………100
	胎土分析による窯跡出土陶器の分類	図67	接合資料分布図……………101
図52	備前古窯跡群・ 勝間田古窯跡群分析試料……78	図68	検索遺物分布図……………101
図53	美濃古窯跡群・ 猿投古窯跡群分析試料……79	古墳からみた5・6世紀の山城地方	
図54	渥美古窯跡群・ 豊橋古窯跡群分析試料……80	図69	5世紀後半～6世紀中葉の 京都盆地の主要古墳……107
図55	常滑窯跡群分析試料……………81	図70	天塚古墳出土の須恵器……………109
図56	各窯跡群出土陶器の元素 組成にもとづく分類樹(1)……88		

表 目 次

表1	梵鐘铸造遺構出土木炭の樹種……22	表7	分析試料(1)……………75
表2	井戸の時期と形態……………34	表8	分析試料(2)……………76
表3	SE15出土遺物……………39	表9	分析試料(3)……………77
表4	SE2出土遺物……………39	表10	分析試料(4)……………78
表5	SK120出土遺物……………39	表11	胎土の元素組成(1)……………84
表6	京都大学構内遺跡の おもな調査……………69	表12	胎土の元素組成(2)……………85
		表13	胎土の元素組成(3)……………86

第 I 部 昭和57年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

- 第 1 章 昭和57年度京都大学構内遺跡調査の概要
- 第 2 章 京都大学教養部構内 A P 22 区の発掘調査
- 第 3 章 京都大学病院西構内 A F 15 区の発掘調査
- 第 4 章 京都大学 北 部 構 内 B F 33 区の発掘調査
- 第 5 章 和歌山県瀬戸遺跡の第 4 ・ 5 次発掘調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 Ⅲ

胎土分析による窯跡出土陶器の分類

マイクロコンピュータと遺跡調査

—光波タキオメータとマイクロコンピュータ

による遺物分布図の作成—

古墳からみた5・6世紀の山城地方

昭和59年3月26日印刷

昭和59年3月30日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和57年度

編集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発行 京都市左京区吉田本町

印刷 山代印刷株式会社
製本 京都市上京区寺之内通小川西入